

授業科目名： 国語学Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 水谷 隆	
						担当形態： 単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）					
授業のテーマ及び到達目標							
（１）知識・技能の観点 日本語学の基本的な用語・概念が理解できる。 （２）思考力・判断力・表現力等の能力の観点 日本語学の用語・概念を用いて、日本語の発音・表記・文法のしくみが説明できる。 （３）主体的な態度の観点 授業の課題への主体的な取り組みを通じて、日本語に対する関心・理解を深める。							
授業の概要							
日本人に対する「国語教育」と外国人に対する「日本語教育」は、一見すると目的も方法論も異なっているように見えるが、「日本語」に対する理解を深め、その運用能力を高めるための教育という点では共通している。この講義では、テキスト『やさしい日本語のしくみ』にそって、現代日本語の発音・表記・文法のしくみおよび日本語学の基本的な用語・概念について概説し、国語教育、日本語教育、日本語研究への導入とする。							
授業計画							
第1回：イントロダクション：国語教育と日本語教育							
第2回：発音のしくみ							
第3回：特殊拍・短縮語							
第4回：五十音図							
第5回：音素と異音							
第6回：アクセント							
第7回：日本語の発音と表記のまとめ							
第8回：日本語学習者の日本語							
第9回：格助詞・とりたて助詞							
第10回：「は」と「が」・省略							
第11回：活用							
第12回：受身							
第13回：ら抜きことば							

第14回：敬語・現代敬語の特徴 第15回：日本語の文法のまとめ 定期試験
テキスト やさしい日本語のしくみ（庵功雄・日高水穂・前田直子・山田敏弘・大和シゲミ著　くろしお出版）
参考書・参考資料等 日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド　第5版（ヒューマンアカデミー編　翔泳社） 日本語の発音教室（田中真一・窪蘭晴夫著　くろしお出版）
学生に対する評価 定期試験〔筆記〕（50%）、平常試験〔レポート〕（50%）

授業科目名： 国語学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水谷 隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標日本語の音文法構造の特徴を学び、日本語の形態論的特徴と、構文論的な特徴について、基礎的な見識を形成する。 （１）日本語の音文法構造の特徴を説明できる。 （２）日本語の形態論的特徴について基礎的な知識を備え、説明できる。 （３）日本語の構文論的特徴について基礎的な知識を備え、説明できる。			
授業の概要 言語の「意味」を担う「文法」・「語彙」の分野の基本構造を説明する。 「文法」は、文法カテゴリーから出発し、日本語の文法的特徴に及ぶ。 「語彙」は、単語の意味の仕組みから出発し、語彙の体系性と量的構造に及ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション：国語教育と文法とは 第2回：構文論 第3回：日本語教育における文法と学校文法 第4回：活用 第5回：副詞・接続詞 第6回：言語学①モダリティ 第7回：言語学②ヴォイス 第8回：言語学③アスペクト 第9回：言語学④テンス 第10回：言語学⑤ムード 第11回：日本語の文法 第12回：日本語の語彙①語彙とは何か 第13回：日本語の語彙②意味と形式 第14回：日本語の語彙③和語・漢語・外来語 第15回：日本語の語彙④語彙の体系 定期試験 テキスト			

展望 現代の日本語（佐藤武義（編著） 白帝社）
参考書・参考資料等 日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド 第5版（ヒューマンアカデミー編 翔泳社） 日本語の発音教室（田中真一・窪菌晴夫著 くろしお出版）
学生に対する評価 定期試験〔筆記〕（60%）、平常試験〔レポート〕（40%）

授業科目名： 日本語文法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柿本 真代
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 日本語を品詞にわけて学習し、日常生活の中でどのように使われているのか、文で書く表現と話す表現のちがいを意識しつつ、日本語文法について学ぶ。小・中・高で学習した日本語文法（学校文法）を振り返りるとともに、その特色を理解する。				
授業の概要 ①日本語の口語文法および文語文法について基礎的な知識を身につけることができる。 ②学校文法の特色と問題点を説明することができる。				
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：品詞 第3回：活用 第4回：文の組み立て 第5回：格助詞 第6回：副助詞 第7回：接続助詞 第8回：連用修飾・連体修飾 第9回：助動詞1受身・使役・可能 第10回：助動詞2否定・時間 第11回：助動詞3モダリティ 第12回：助動詞と似た働きの形式 第13回：敬語 第14回：文章と談話 第15回：まとめ 定期試験				
テキスト 国語教師が知っておきたい日本語文法（山田敏弘 くろしお出版）				
参考書・参考資料等				

授業中に適宜紹介
学生に対する評価
定期試験〔筆記〕（70%）、平常試験〔レポート〕（30%）

授業科目名： 日本語史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平間 尚子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①日本語の特色とその歴史的背景を理解する。			
②ふだん無意識に使っている日本語に対する認識を深める。			
③日本語の歴史的変化をふまえることで、現代日本語を正しくに用いることができるようになる。			
④絶えず変化し続けている日本語において、「変化」と「乱れ」との違いを正しく認識することができる。			
授業の概要			
日本語は、原始日本語の特徴を受け継ぎつつ、漢字・漢語の渡来により大きな変容を遂げ、外来語の影響等により今なお変化し続けている。本科目では、音韻・表記・語彙・文法等の各側面について日本語の特色を明らかにし、その歴史的背景を探る。			
授業計画			
第1回：日本語の歴史を学ぶ意義			
第2回：日本語の起源と系統			
第3回：漢字の伝来と受容			
第4回：漢字による日本語の表記―訓字と万葉仮名（古事記）―			
第5回：漢字による日本語の表記―訓字と万葉仮名（万葉集）			
第6回：上代特殊仮名遣いとその変遷			
第7回：母音音節の特質と音便の成立			
第8回：平安時代初期の仮名字体―万葉仮名から草仮名・省画仮名へ―			
第9回：平仮名の成立―草仮名から平仮名へ―			
第10回：片仮名字体の変遷			
第11回：漢文訓読語と和文語―用語の特徴と文体―			
第12回：漢語の受容と日本語への定着			
第13回：漢語の受容と日本語への影響			
第14回：助動詞の変遷―『平家物語』伝本の比較から―			
第15回：現代日本語助動詞の特徴―古代語助動詞との比較から―			

定期試験
テキスト 授業時にプリントを配布する。
参考書・参考資料等 ワークブック 日本語の歴史（岡崎友子/森勇太 著 くろしお出版）
学生に対する評価 定期試験〔筆記〕（50%）、平常試験〔レポート〕〔筆記〕（50%）

授業科目名： 日本語表現法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柿本 真代
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （１）日本語の基礎的な知識、紹介文や意見文を書くことができる。 （２）ディスカッションやディベートの方法を理解し、実践することができる。 （３）調査結果や考察をレポートにまとめ、口頭で発表することができる。				
授業の概要 大学での学びに必要なとなる基礎的な日本語表現の方法を学び、調査した内容や自分の考察な どを文章にし、口頭で発表できるようトレーニングを行う。				
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：紹介文（自分の好きなもの・こと）—文章 表現① 第3回：紹介文（自分の故郷）—文章表現② 第4回：自己紹介—口頭発表① 第5回：本の紹介—口頭発表② 第6回：賛成・反対の意見文—文章表現③論理展開 第7回：図書館の活用と新聞記事の探し方 第8回：新聞・雑誌記事の紹介—口頭発表③ 第9回：賛成・反対の意見文—文章表現④根拠の提 示 第10回：意見の主張—口頭発表④ 第11回：変化を説明する文—文章表現⑤自己の変化 第12回：変化を説明する文—文章表現⑥社会の変化 第13回：対立項と時間軸のある文章—文章表現⑦ 第14回：アンケート調査 第15回：調査の発表・文章化 定期試験				
テキスト 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 改訂第2版（銅直信子・坂東実子著 国書刊行会 ）				

参考書・参考資料等
授業中に指定する
学生に対する評価
定期試験〔筆記〕（50%）、平常試験〔レポート〕（50%）

授業科目名： 国文学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平間 尚子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①近代文学の発展と影響について理解し、作家の連続と断絶を説明することができる。 ②近代文学の方法論がそれまでの文学といかに違うかについて文章を用いて説明できる。 ③近代日本社会が文学に与えた影響を説明できる。			
授業の概要 国文学の概要を学ぶ本授業では、高等学校等の国語教科書（言語文化・文学国語）に掲載されている近代文学作品を中心に取り上げる。前半は、明治・大正期の文学史を概説し、日本文学の背景にある思想や歴史を学ぶ。後半は、批評理論を概説し、文学作品を論理的に読む力を身に付ける。			
授業計画 第1回：はじめに～文学史と批評理論 第2回：近代小説の誕生：日本近代文学の出発① 第3回：没理想論争における森鷗外の主張：日本近代文学の出発② 第4回：自然主義文学と田山花袋の「蒲団」：明治後期の文学① 第5回：反自然主義と夏目漱石の西洋観：明治後期の文学② 第6回：白樺派の文学と志賀直哉：大正期の文学① 第7回：新感覚派とプロレタリア文学：大正期の文学② 第8回：日本近代文学史のまとめ 第9回：森鷗外「舞姫」の分析：都市論 第10回：夏目漱石「こころ」の分析：テキスト論 第11回：志賀直哉「城の崎にて」の分析：テキスト生成論 第12回：芥川龍之介「羅生門」の分析：ナラトロジー① 第13回：横光利一「頭ならびに腹」「蠅」の分析：異化効果・ナラトロジー② 第14回：葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」の分析：カルチュラル・スタディーズ 第15回：講義全体のまとめ 定期試験 テキスト			

日本近代小説史 新装版（安藤宏著 中央公論新社）
参考書・参考資料等 授業中に適宜配布する
学生に対する評価 定期試験〔筆記〕（70％）、平常試験〔レポート〕（30％）

授業科目名： 日本文学概論Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平間 尚子
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
（１）古典作品や作者についての理解を深め、現在まで伝えられた魅力を説明できる （２）古典文学に対し関心を持ち、作品を鑑賞して文章で表現できる （３）古代から近世までの時代ごとの日本古典文学の特徴を理解することができている。				
授業の概要				
古代から近世までの日本古典文学の系譜について講述します。具体的な作品を取り上げ、成立の背景や時代性、作者の問題等について考えるとともに、他作品との影響関係や後世の受容と展開について理解を深めます。				
授業計画				
第１回：はじめに～文学とは何か 第２回：和歌の展開 第３回：中古の物語 第４回：日記文学の展開 第５回：随筆文学の問題 第６回：歴史物語の世界 第７回：説話文学の世界 第８回：上代・中古文学のまとめ 第９回：軍記物語の世界 第１０回：中世王朝物語 第１１回：中世の和歌と連歌 第１２回：御伽草子と仮名草子 第１３回：俳諧と紀行文 第１４回：読本の展開 第１５回：出版文化の隆盛、授業の総括				
定期試験				
テキスト				
資料を配布します。				

参考書・参考資料等
日本文学史 古代・中世編（小峯和明編 ミネルヴァ書房）
学生に対する評価
定期試験〔筆記〕（60％）、平常試験〔レポート〕（40％）

授業科目名： 日本文学概論Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柿本 真代
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
（１）日本児童文学史の概要と特質を説明することができる。 （２）子どもにとって「よい本」とはなにか、自分なりに説明することができる。				
授業の概要				
この授業では、日本文化のなかでも児童文学を主に扱う。近代日本で最初の創作児童文学といわれる巖谷小波『こがね丸』は博文館の「少年文学」叢書の第1冊目である。『こがね丸』をはじめとした博文館「少年文学」叢書を読み進めるとともに、文学と絵の関係についても考察する。				
授業計画				
第1回：授業ガイダンス				
第2回：日本児童文学史における「少年文学」叢書				
第3回：日本最初の創作児童文学				
第4回：「こがね丸」の変容				
第5回：アンデルセンと尾崎紅葉「二人棕助」				
第6回：偉人伝と「少年文学」叢書				
第7回：近代日本文学における口絵・挿絵				
第8回：「少年文学」叢書における口絵・挿絵				
第9回：作品の鑑賞とディスカッション①小川未明				
第10回：作品の鑑賞とディスカッション②谷川俊太郎				
第11回：カルチュラル・スタディーズ 文化研究				
第12回：キリスト教児童文学				
第13回：作品の鑑賞とディスカッション③宮沢賢治				
第14回：作品の鑑賞とディスカッション④新美南吉				
第15回：「少年文学」叢書の意義とこどもの本に求められるもの				
定期試験				
テキスト				
授業中、プリントを適宜配布する。				

参考書・参考資料等
日本文学概論（井上豊著 笠間書院）
学生に対する評価
定期試験（筆記試験 50％） 平常試験（口述試験 50％）

授業科目名： 日本文学史		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平間 尚子
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
（１）日本文学の時代ごとの特徴を大まかに捉え、代表的な作品や作家について基礎的な知識を身に付けている。 （２）日本文学・日本文化を学ぶための基礎作りと同時に、各種採用試験の一般教養に対応できる知識を取得する。				
授業の概要				
日本文学の歴史的展開をみていくが、時代別の特徴や代表的な作品についてある程度知識を有している前提で授業を進める。もとより、日本史の基礎的知識が必要となる。				
授業計画				
第1回：日本文学史の区分				
第2回：中古～概観、詩歌				
第3回：中古～物語				
第4回：中古～日記・随筆、説話・歌謡				
第5回：中世～概観、和歌・連歌の流れ、歌謡				
第6回：中世～物語・説話				
第7回：中世～日記・随筆、芸能				
第8回：近世～概観、小説				
第9回：近世～俳諧、川柳・狂歌				
第10回：近世～芸能、和歌・漢詩文				
第11回：近現代～概観、明治期（近代社会の幕開けと文学）				
第12回：近現代～大正期（自然主義とその周辺、耽美派、白樺派、新現実主義）				
第13回：近現代～大正末・戦前昭和（プロレタリア文学、戦時下の文学）				
第14回：近現代～戦後昭和（戦後文学、高度成長期の文学）				
第15回：日本文学史まとめ				
定期試験				
テキスト				
原色 新日本文学史[増補版]（秋山虔・三好行雄著 文英堂）				

参考書・参考資料等

日本文学史16巻[中公文庫]（ドナルド・キーン著、土屋政雄・徳岡孝夫・角地幸男・新井潤美（翻訳） 中央公論新社）

学生に対する評価

定期試験【筆記試験：60%】、平常試験【筆記試験、レポート：40%】

授業科目名： 古典文学講読		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平間 尚子
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
・古典文学、特に平安時代の文学を読む上で必要な基礎知識を身につける。 ・古典文学、特に『源氏物語』などの物語文学の性質について理解し、説明できるようになる。 ・古典文学研究、特に物語文学研究にはどのような視点や方法がありうるのかを考え、説明できるようになる。				
授業の概要				
『源氏物語』のいわゆる「玉鬘十帖」、玉鬘という女性をめぐる物語を読み進めていく。そのことを通して、古典文学、特に物語文学を読解するために必要な力を養う。いくつかの主要な場面を取り上げ、それらについて従来どのような視点から研究がなされてきたかを紹介しながら講義を進めていく。				
授業計画				
第1回：ガイダンス～本講義の概要				
第2回：『源氏物語』の概説				
第3回：「帚木」・「空蟬」・「夕顔」				
第4回：「玉鬘」				
第5回：「初音」				
第6回：「胡蝶」				
第7回：「蛭」				
第8回：「常夏」				
第9回：「篝火」				
第10回：「野分」				
第11回：「行幸」				
第12回：「藤袴」				
第13回：「真木柱」				
第14回：紫上系と玉鬘系				
第15回：まとめ～総括				

定期試験
テキスト 平安文学十五講（井上眞弓、鈴木泰恵、深澤徹編 翰林書房）
参考書・参考資料等 はじめて読む源氏物語（藤原克己 監修／今井上 編 花鳥社）
学生に対する評価 定期試験〔筆記〕（70%）、平常試験〔レポート〕（30%）

授業科目名： 京都と文学（古典）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平間 尚子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 平安から鎌倉時代の過渡期に成立した『方丈記』を通読しながら、当時の平安京を襲った「五大災厄」に描かれた平安京の姿やその歴史的背景を把握する。			
2. その中で生きた鴨長明の人生観や宗教観、『方丈記』の執筆意図を理解する。			
授業の概要			
鴨長明『方丈記』を精読する。和歌の名人でもあった鴨長明が、「方丈」（3メートル四方）の庵で随筆を書き上げるまでの人生の流転と、当時の平安京を覆った災害と思想について講義する。			
授業計画			
第1回：『方丈記』概説			
第2回：鴨長明の家系			
第3回：『方丈記』の主題			
第4回：『方丈記』序文			
第5回：『方丈記』に描かれた都① 末法思想			
第6回：『方丈記』に描かれた都② 民衆の生活			
第7回：『方丈記』に描かれた都③ 五大災厄			
第8回：『方丈記』に描かれた都④ 仏教改革			
第9回：慶滋保胤『池亭記』			
第10回：長明の挫折と出家			
第11回：日野山の方丈の庵			
第12回：閑居の四季と生活			
第13回：都市生活と閑居			
第14回：『方丈記』跋文			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
方丈記 現代語訳付き（鴨長明 著 築瀬一雄 訳注 角川ソフィア文庫）			

参考書・参考資料等
授業時に適宜プリントを配布する。
学生に対する評価
定期試験〔筆記〕（70%）、平常試験〔レポート〕（30%）

授業科目名： 京都と文学（近現代）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新矢 昌昭
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
（１）近代の文学作品について、その変遷を踏まえて概要を説明することができる。 （２）作家の京都とのかかわりが作品にどう影響したかを理解して説明できる。				
授業の概要				
本講義は、近代の文学者を通して彼ら彼女が京都をどのように描いていたのか考えることを目的とする。京都は、様々な小説やエッセイの舞台になっている。それだけ、作家に対して京都は何らかの印象を与える地であったとも言える。ここでは、特に、夏目漱石、梶井基次郎、谷崎潤一郎などの京都を舞台とした作品を取り挙げ、京都の特質や魅力について考える。 これらの作品を通して、京都の町や風景、風俗などをも観察し、現代の京都と比較し、継続するもの、失われたものを考える。				
授業計画				
第1回：京都と文学 導入				
第2回：梶井基次郎について① 半生について				
第3回：梶井基次郎について② 創作と京都の関わり				
第4回：梶井基次郎について③ 檸檬について				
第5回：谷崎潤一郎について① 大正期の文壇				
第6回：谷崎潤一郎について② 創作と京都の関わり				
第7回：谷崎潤一郎について③ 関西移住の影響				
第8回：谷崎潤一郎について④ 通俗性と芸術性				
第9回：夏目漱石について① 京都訪問				
第10回：夏目漱石について② 夏目漱石と近代化について				
第11回：夏目漱石について③ 夏目漱石と居住地の関わり				
第12回：夏目漱石について④ 夏目漱石と社会学				
第13回：夏目漱石について⑤ 大正・昭和期の漱石の影響について				
第14回：京都の文学的影響について 村上春樹、綿谷りさなど京都ゆかりの作家について				
第15回：まとめ（近現代の文学について）				
定期試験				

テキスト
日本の近代小説（中村光夫著 岩波新書）
参考書・参考資料等
授業中、プリントを適宜配布する
学生に対する評価
定期試験〔筆記〕（70%）、平常試験〔レポート〕（30%）

授業科目名： 漢文学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 工藤 美和子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標			
（１）漢文訓読のための専門的知識を身につけることができる。 （２）訓点と漢文文法を理解し、書き下しと現代語訳をすることができる。 （３）漢和辞典等の工具書を用いて漢文を読解できるようになる。			
授業の概要			
漢文訓読のための訓点や文法を習得し、訓読を理解し基本的な読解力を身につける。また漢文学を読むことで時代背景や人物エピソードを通して漢文の面白さや興味を深めることをめざす。なお、本科目は3回生春学期の「漢文学Ⅱ」とあわせて受講することが望ましい。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 漢文と日本語文の違い			
第2回：漢文の構造（1）文型			
第3回：漢文の構造（2）返り点			
第4回：漢文の構造（3）置き字			
第5回：漢文の構造（4）再読文字			
第6回：漢文の句法（1）否定と禁止			
第7回：漢文の句法（2）疑問と反語			
第8回：漢文の句法（3）仮定			
第9回：漢文の句法（4）使役と受け身			
第10回：漢文の句法（5）比較と選択			
第11回：漢文の句法（6）限定・抑揚・詠嘆・累加			
第12回：漢文を読んでみよう（1）矛盾			
第13回：漢文を読んでみよう（2）蛇足			
第14回：漢文を読んでみよう（3）四面楚歌			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
特に使用しない。授業内でプリントを配布する。漢和辞典は必ず持参すること。			

参考書・参考資料等
小川環樹・西田太一郎・他編『改訂新版 角川新字源』（角川書店、2017年）（他の漢和辞典でもかまいません） 三浦勝利『漢文を読むための助字小辞典』（内山書店、1996年）
学生に対する評価
定期試験〔筆記〕（70%）、平常試験〔レポート〕（30%）

授業科目名： 漢文学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 工藤 美和子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標			
（１）漢文学作品を通して、中国文化と日本文化に対する理解を深めることができる。 （２）漢文訓読のための専門的知識を身につけ、白文を書き下し現代語訳することができる。 （３）漢和辞典等の工具書を用いて漢文を読解できるようになる。			
授業の概要			
「漢文学Ⅰ」で習得した訓点や文法を生かしながら、『古文真宝』に収録されている漢詩文を読み、作品の内容や表現を理解し読解力を深める。同時にそれら作品が生まれた歴史的背景、また様々な漢文学が日本の古代から近代までの日本文化に与えた影響も考察する。なお、本科目は２回生秋学期の「漢文学Ⅰ」とあわせて受講することが望ましい。			
授業計画			
第１回：オリエンテーション 漢文と日本語文の違い			
第２回：漢詩を読む（１）李太白「王昭君」			
第３回：漢詩を読む（２）孟郊「遊子吟」			
第４回：漢詩を読む（３）陶淵明「飲酒二十首其五」			
第５回：漢詩を読む（４）曾子固「虞美人草」			
第６回：漢詩を読む（５）白樂天「長恨歌」			
第７回：漢詩を読む（６）白樂天「琵琶行」			
第８回：白樂天と日本文化			
第９回：漢文を読む（１）屈原「漁夫辞」			
第１０回：漢文を読む（２）王羲之「蘭亭記」			
第１１回：王羲之と日本文化			
第１２回：漢文を読む（３）蘇東坡「赤壁賦」			
第１３回：漢文を読む（４）蘇東坡「後赤壁賦」			
第１４回：漢文を読む（５）諸葛孔明「出師表」			
第１５回：まとめ			
定期試験			
テキスト			

特に使用しない。授業内でプリントを配布する。漢和辞典は必ず持参すること。

参考書・参考資料等

小川環樹・西田太一郎・他編『改訂新版 角川新字源』（角川書店、2017年）（他の漢和辞典でもかまいません）
三浦勝利『漢文を読むための助字小辞典』（内山書店、1996年）

学生に対する評価

定期試験〔筆記〕（70%）、平常試験〔レポート〕〔筆記試験〕（30%）

授業科目名： 書道Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目 (中学校)	単位数： 2単位	担当教員名： 天野健一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：中学校国語科書写の学習指導に必要な知識を身につける。 基本的用筆法を習得し、全ての書体の基本であることを理解する。 （１）中学校国語科書写の概要を説明することができる。 （２）基本的用筆法の理論を説明し、指導することが出来る。 （３）基本的用筆法の理論を実践し、指導することが出来る。			
授業の概要			
中学校国語科書写の学習指導に必要な知識・技能・指導法について講義する。学校教育における書写では、文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てることが求められている。本授業は毛筆の基本的用筆法の「理論・実技」の習得を目指す。基本的用筆法は、楷書・行書・平仮名・片仮名学習の要である。その実習の過程で、書写の指導法や指導計画等を学ぶ。実習は理論３実技７の割合で行う。書写の教材を中心に学習するが、生活に役立てる書も学習する。			
授業計画			
第１回：ガイダンス			
第２回：楷書に調和する平仮名			
第３回：楷書に調和する片仮名			
第４回：楷書の基本点画			
第５回：字系の要素			
第６回：筆順			
第７回：点画の長短			
第８回：点画の方向			
第９回：点画の接し方			
第１０回：点画の交わり／書写の指導法まとめ			
第１１回：上下からなる文字の組み立て			
第１２回：左右からなる文字の組み立て			
第１３回：内外からなる文字の組み立て			

第14回：文字の大きさと配列／指導計画まとめ
第15回：硬筆
定期試験
テキスト
国語科書写の理論と実践（全国大学書写教育学会編 萱原書房）
参考書・参考資料等
授業中、適宜紹介する
学生に対する評価
定期試験（提出物70％）、平常試験（毎回の授業の達成度30％）

授業科目名： 書道Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目 (中学校)	単位数： 2単位	担当教員名： 天野健一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：中学校国語科書写の学習指導に必要な知識を身につける。 書道Ⅰで習得した基本的用筆法を基本とし、多彩な表現を身につける。 （１）多彩な表現方法の理論を説明し、指導することが出来る。 （２）多彩な表現方法の理論を実践し、指導することが出来る。 （３）高等学校芸術科書道の概要を説明することができる。			
授業の概要			
書写の学習を基礎にして、表現活動と鑑賞活動についての幅広い学習を通して、創造的、個性的な芸術に関する資質・能力を伸ばすことが求められている。本授業は書写の正しく整えて書くことを基本とし、さらなる書写の深識を目指しながら、芸術としての表現性を学ぶ芸術科書道にも触れる。実習では書の伝統に基づき、古典の臨書や、名筆の表現を踏まえて「理論、実技」を学び、書道の指導法や指導計画等を学ぶ。書写及び書道の教材を学習する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：行書の特徴			
第3回：点画の丸み			
第4回：点画の連続①筆脈の実線化			
第5回：点画の連続②直接連続			
第6回：点画の省略①きへん こめへん			
第7回：点画の省略②のぎへん もんがまえ あめかんむり			
第8回：筆順の変化①形状変化なし（楷書から行書へ）			
第9回：筆順の変化②形状変化あり（ころもへん しめすへん いとへん くさかんむり）			
第10回：行書と仮名の調和			
第11回：文字の大きさと配列①行書き			
第12回：文字の大きさと配列②散らし書き			
第13回：漢書の古典			

第14回：実用書式／指導計画まとめ 第15回：高校芸術科書道について／硬筆 定期試験
テキスト 国語科書写の理論と実践（全国大学書写教育学会編 萱原書房）
参考書・参考資料等 授業中、適宜紹介する
学生に対する評価 定期試験（提出物70％）、平常試験（毎回の授業の達成度30％）

授業科目名： 中等教科教育法Ⅰ （国語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平林 秀二 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
教職の意義の認識の上に、国語科の使命を理解し、現代の学力観に立脚する授業設計の基礎を学ぶとともに、指導に必要な様々な基本的な技能を身に付けることができる。			
授業の概要			
各回を講義的要素と実践的要素の複合により構成し、アクティブラーニングを通して理解を確かなものにし、技能を身に付ける。概ね回が進むにつれて実践的要素が増す。教育実習生、講師、若年教員の困りや相談内容を踏まえ、生徒に信頼される教師像を具現化するための考え方や音声、書字、教材の読み取り、問い・言語活動づくり、認め・評価、学習指導案作成などの方法を実践的に学んでいく。総じて概論的であり、Ⅱ、Ⅲ・Ⅳへとつながる内容である。			
授業計画 受容・理解的内容と〔実践的・アクティブな内容〕			
第 1 回：各教科等の存在意義を明らかにし、学習指導要領（総則、国語科）の基本を理解する。 〔生徒に受け入れられやすい音声・範読の技能〕			
第 2 回：授業方法の変遷（講義、発問、言語活動の充実）を知り、授業づくりの基本を学ぶ。 〔説明的文章のわかりやすい範読〕			
第 3 回：他教科の例も参考に習得・活用・探究型学習、「学力」と「資質・能力」について考える。 〔説明的文章のわかりやすい範読・文学的文章のよさが伝わる範読〕			
第 4 回：時代とともに「子どもは変わった」かを見、「生徒指導」の変容と真意を理解する。 〔文学的文章のよさが伝わる範読・詩・短歌・俳句・漢詩のよさが伝わる範読〕			
第 5 回：ドラマの中の先生、自分の先生を改めて解釈し、教師の資質能力を明らかにする。 〔口頭のみによる説明〕			
第 6 回：「教室 4 技能」（説明、指示・発問、板書、認め・評価）を磨く。 〔提示の板書、記録、整理のための板書〕			
第 7 回：指導事項（目標）を踏まえて発問を案出、さらに言語活動を充実させる指示をつくる。 〔発問づくり、言語活動をもたらす指示づくり〕			
第 8 回：科学的リテラシー、PDCAサイクルを働かせて授業等指導を改善する。 情報通信技術の活用方法を理解し具体化 〔短い模擬授業とその記録、分析〕			
第 9 回：下位目標を見つける「目標分析」から指導計画へ 〔1 教材の指導計画（3～4 時間）〕			
第 10 回：個別最適・協働的な学び、対話的で深い学びを効果的に／			

〔説明プリントの作成〕 第11回：指導事項、授業の目標、その達成の手立て（問い、言語活動）、評価の関係 〔ノートづくり、ワークシートづくり〕 第12回：1～11回の関連付け 〔それに基づいた教材の指導計画、板書計画、ノート計画の作成（3～4時間）〕 第13回：学習指導案の考え方、書き進め方〔学習指導案の作成（各自1時間分）〕 第14回：〔模擬授業と協議〕 第15回：〔模擬授業と協議〕生徒指導と教科指導〔今の教師観をまとめる〕 定期試験
テキスト 中学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月 文部科学省）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価 定期試験（レポート 50%） 平常試験（各回の「実践的・アクティブな内容」の記述50%）

授業科目名： 中等教科教育法Ⅱ (国語)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平林 秀二 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校、高等学校の国語科で育まなければならない資質・能力を体系的に理解し、自らの読解力、表現力、語感を磨くとともに、資質・能力を育むための領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）、知識及び技能ごとの手法を獲得することができる。			
授業の概要 各回を講義的要素と実践的要素の複合により構成し、概論的・基礎的なⅠをさらに国語科の授業づくりに特化した内容とし、アクティブラーニングを通して確かな理解と実践力を身に付ける。全員で共通の教材を扱うことにより、学習指導要領の趣旨を確実に具現化し、より多くの教材・単元に取り組むⅢ・Ⅳに進めるよう方向づける。			
授業計画 受容・理解的内容と〔実践的・アクティブな内容〕 第 1 回：国語科の課題（言語活動の充実、指導と評価の一体化、読解力、指導事項の読み取り） 〔教科書の文章を読む・内容の読み取り〕 第 2 回：学習指導要領の構成と趣旨を理解し、教科の目標と指導事項を読み取る 〔教科書の文章を読む 構成・表現の特徴の読み取り〕 第 3 回：知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する事項について 〔話し言葉と書き言葉、漢字、語彙、文法、敬語、表現技法の演習〕 第 4 回：知識及び技能(2)情報の扱い方に関する事項、(3)我が国の言語文化に関する事項について 〔原因と結果、意見と根拠、比較や分類、情報の整理の仕方、引用の仕方、意見と根拠、具体と抽象、情報の信頼性の確かめ方、古文、書写、読書についての演習〕 第 5 回：A話すこと・聞くことでできるようにしたいこと 〔1授業の案出、試行、相互批評による改善〕 第 6 回：B書くことでできるようにしたいこと／ 〔1授業の案出、試行、相互批評による改善〕 第 7 回：C読むこと（説明的文章）でできるようにしたいこと 〔言語活動の案出、試行、相互批評による改善〕 第 8 回：C読むこと（文学的文章）でできるようにしたいこと 〔言語活動の案出、試行、相互批評による改善〕 第 9 回：3観点の評価規準、基準、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長・評価、成績処理 〔学習指導案の作成、指導と評価の視点から〕			

第10回：ペア、グループによる学習、発表の意義、その有効化（活動が学びとなるために）

〔学習指導案の作成、対話的・協働的な学びの視点から〕

第11回：多様な生徒の学び甲斐・学び心地の追究、学習課題のユニバーサルデザイン化

情報通信技術の活用方法を理解し具体化

〔学習指導案の作成、要支援生徒への配慮・個別最適な学び、学習の個性化の視点から〕

第12回：「設計力」と「施工力」からなるいわゆる授業力、授業の記録の仕方

〔板書計画、ノートの計画、模擬授業と記録〕

第13回：〔模擬授業と記録〕

第14回：記録の解釈（授業を見る視点）

〔模擬授業の解釈と学習指導案の改善〕

第15回：真にスパイラルに伸ばすとは？ 良き教科指導がもたらすもの

〔今の授業観をまとめる〕

定期試験

テキスト

中学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

定期試験（レポート 50%） 平常試験（各回の「実践的・アクティブな内容」の記述50%）

授業科目名： 中等教科教育法Ⅲ (国語)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平林 秀二 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・Ⅰ、Ⅱで得た理解と技能を活用し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の複数の単元で、生徒が主体的に目標に向かって活動し資質・能力を育める授業づくりができるようになる。 ・書写と、短歌と古典教材による「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」の授業づくりを実践的に学び、それぞれの教材の特徴から育みたい資質・能力（指導事項）を見出して目標とし、育む手立てとなる言語活動を案出して評価できるようになる。 ・Ⅳの「読むこと」と並行して進めることにより、読むこととのスパイラルな伸長や、知識及び技能の定着と活用を伴う視点をもつことができる。 ・授業プランを、授業者の思考や協議のツールと捉え、事前検討、授業観察、事後協議が正しい視点で行えるようになる。			
授業の概要			
演習的な内容が充実するよう必要に応じて講義も行うが、概ね演習的、実践的要素で構成し、アクティブラーニングを通して理解・技能をブラッシュアップしていく。「話すこと・聞くこと」と「書くこと」を主に扱うが、音声言語と文字言語の指導の共通点と相違点を明確にするために、また同じ題材で話すこと・聞くことと書くことに取り組むことも可能となるように、概ね交互に扱う。一部、書写、短歌、古典を「読むこと」等で扱う。授業者になるための講座だがその中で、生徒の視点で、どのような授業者の関わり方が意欲を向上させるかといった気付きにも期待したい。			
授業計画			
第 1 回：社会生活と話すこと・聞くこと、書くこと			
主体的に学習に取り組む態度の伸ばし方と評価			
話すこと（スピーチ）と聞くことの指導の留意点、指導計画			
第 2 回：話すこと（スピーチ）・聞くことの指導と評価の演習、相互批評			
第 3 回：根拠を明確にして自分の考えを説明する文章、意見文の指導の留意点、指導計画			
第 4 回：話すこと（資料や機器を用いた自分の考えのプレゼンテーション）と聞くことの指導の留意点、指導計画			
第 5 回：話すこと（資料や機器を用いた自分の考えのプレゼンテーション）・聞くことの指導と評価の演習、相互批評			
第 6 回：古文の教材研究と指導事項の確認、授業プラン、板書計画作成			
第 7 回：ノート指導またはワークシート作成、授業演習、相互批評			

第 8 回：短歌の教材研究と指導事項の確認、授業プラン、板書計画作成
第 9 回：ノート指導またはワークシート作成、授業演習、相互批評 構成や表現を工夫して書く文章（随筆的）の指導の留意点、指導計画、相互批評
第 10 回：目標を明確にした書写指導、演習、相互批評
第 11 回：話し合うこと（合意形成を目指す形式）の指導の留意点、指導計画
第 12 回：話し合うこと（合意形成を目指す形式）の指導と評価の演習、相互批評
第 13 回：通信文、報道文、鑑賞文、紀行文、批評文の指導の留意点、指導計画、相互批評 情報リテラシーについて～情報通信技術の活用方法を理解し具体化
第 14 回：読書指導への活用、ブックトーク、ビブリオバトル演習 コミュニケーション力とはどんな力だと思ようになったか
第 15 回：他領域・他教科等での活用、ポスターセッション演習 生成AIと、人間が話すこと・聞くこと、書くことの価値について考えておく
定期試験
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編（文部科学省）、光村図書 国語2
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価
定期試験（レポート 50%） 平常試験（各回の「実践的・アクティブな内容」の記述50%）

授業科目名： 中等教科教育法Ⅳ （国語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平林 秀二 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・Ⅰ、Ⅱで得た理解と技能を活用し、「読むこと」の複数の教材、単元で、生徒が主体的に目標に向かって活動し資質・能力を育める授業づくりを実践的に学び、それぞれの教材の特徴から育みたい資質・能力（指導事項）を見出して目標とし、育む手立てとなる言語活動を案出して評価できるようになる。 ・Ⅲの「話すこと・聞くこと」「書くこと」と並行に進めることにより、それらとのスパイラルな伸長や、知識及び技能の定着と活用を伴う視点をもつことができる。 ・学習指導案を、その完成を一つのゴールとしながらも、作成過程では授業者の思考や協議のツールと捉え、事前検討、授業観察、事後協議が正しい視点で行えるようになる。			
授業の概要			
演習的な内容が充実するよう必要に応じて講義も行うが、概ね演習的、実践的要素で構成し、アクティブラーニングを通して理解・技能をブラッシュアップしていく。説明的文章と文学的文章の指導の共通点と相違点をはじめ、文章の特徴に合わせた言語活動を案出できることが大切である。Ⅲと並行して進めることで、実際の学校での場面のように領域を結び付けた指導やその効果を見ることもあろう。「話すこと・聞くこと」「書くこと」に比べると「読むこと」は旧来から力を入れてきたことのように思われるが、読むことの指導方法こそ最も旧態依然に陥りやすい。テストや入試と結び付けがちな「読むこと」の学習だが、今日的な学力観に立脚して、毎時間の授業自体に成就感と自己有用感を得ながら学べる授業づくりを目指したい。			
授業計画			
第 1 回：社会生活と読むこと、主体的に学習に取り組む態度の伸ばし方と評価 入学時、進級時の「授業開き」、初期指導のねらいと計画、国語科の楽しさの形成 情報通信技術の活用方法を理解し具体化 文学的文章（１）の教材研究と指導事項の確認、授業プラン、板書計画作成			
第 2 回：ノート指導またはワークシート作成、授業演習、相互批評			
第 3 回：説明的文章（１）の教材研究と指導事項の確認、授業プラン、板書計画作成			
第 4 回：ノート指導またはワークシート作成、授業演習、相互批評			
第 5 回：文学的文章（２）の教材研究と指導事項の確認、授業プラン、板書計画作成			

第 6 回：ノート指導またはワークシート作成、授業演習、相互批評
第 7 回：説明的文章（2）の教材研究と指導事項の確認、授業プラン、板書計画作成
第 8 回：ノート指導またはワークシート作成、授業演習、相互批評
第 9 回：説明的文章（3）の教材研究と指導事項の確認、学習指導案作成
第 10 回：ノート指導またはワークシート作成、授業演習、相互批評
第 11 回：取組教材の決定、その教材研究と指導事項の確認、学習指導案作成
第 12 回：教材ごとのグループ協議、学習指導案の修正
第 13 回：模擬授業と事後協議（1）
第 14 回：模擬授業と事後協議（2）
第 15 回：模擬授業と事後協議（3）、まとめ
定期試験
テキスト 光村図書「国語 2」
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する
定期試験（レポート 50%） 平常試験（各回の「実践的・アクティブな内容」の記述50%）

授業科目名： くらしと法律（日本国憲法）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水野 彰子
				担当形態： 単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
（１）知識・技能の観点 主権者として必要な知識を習得することができる。 （２）思考力・判断力・表現力等の能力の観点 人生の各段階で直面する様々な問題を、法的側面から理解することができる。 （３）主体的な態度の観点 日本国憲法を、くらしに関連する法律と共に、理解できる。				
授業の概要				
日常生活の中で、憲法や法律について考える機会は少ないかもしれないが、憲法は、我々の基本的な権利や国の根幹について定めるとても大事なものである。この授業では、身近な「人権」の例や、社会生活の中で目にしうる法律問題を取り上げながら、憲法の基本的な考え方を学ぶものである。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション（憲法、法律、日常生活）				
第2回：幸福追求権と公共の福祉				
第3回：法の下での平等				
第4回：表現の自由				
第5回：経済的自由と労働権				
第6回：婚姻				
第7回：家族				
第8回：子ども				
第9回：生存権と社会保障				
第10回：教育と学問				
第11回：犯罪と刑罰				
第12回：財政と税金				
第13回：行政と地方自治				
第14回：参政权、国会、憲法改正				
第15回：まとめ				

定期試験
テキスト プリントを毎回配布
参考書・参考資料等 『おとめ六法』（上谷さくら・岸本学、KADOKAWA、2020年）、『マンガでわかる日本国憲法』（木山泰嗣監修、池田書店、2014年）、『こども六法』（山崎聡一郎、弘文堂、2019年）、『もしも世界に法律がなかったら』（木山泰嗣、日本実業出版社、2019年）等授業中に適宜紹介
学生に対する評価 定期試験〔筆記〕（50%）、平常試験〔口述、レポート〕（50%）

授業科目名： 健康スポーツ科学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 石倉 忠夫
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 (1) 知識・技能の観点 運動が心身に及ぼす影響について学習し、将来における健康についての理解をスポーツの実践をとおして深める。 (2) 思考力・判断力・表現力等の能力の観点 体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 (3) 主体的な態度の観点 運動習慣を身に付ける。			
授業の概要 講義では運動活動が心身に及ぼす効果と運動活動の継続法について理解を深める。実技では各種スポーツがどのような運動特性に該当するかについて理解しながらルールを学び、グループワークを通じた基本的な技術を習得することで生涯に 亘り日常的に運動・スポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定（ロコモティブシンドローム診断テスト）を実施し、自己の運動・スポーツ実践状況の検討を加え、レポートにまとめる。			
授業計画 第1回：はじめに 第2回：体力測定 1：ロコモティブシンドローム度測定 第3回：講義：ロコモティブシンドロームの理解と予防 第4回：バドミントン 1：基礎スキルの習得 第5回：バドミントン 2：ルールの理解 第6回：バドミントン 3：基礎スキルの実践 第7回：バドミントン 4：基礎スキルの応用 第8回：バドミントン 5：基礎スキルの応用 第9回：ソフトバレーボール 1：基礎スキルの習得 第10回：ソフトバレーボール 2：ルールの理解 第11回：ソフトバレーボール 3：基礎スキルの実践 第12回：ソフトバレーボール 4：基礎スキルの応用 第13回：ソフトバレーボール 5：基礎スキルの応用			

第14回：体力測定2：ロコモティブシンドローム度測定 第15回：まとめ 定期試験
テキスト 必要に応じてプリントを配付する。
参考書・参考資料等 「健康スポーツの心理学」 竹中 晃二 編（大修館書店）
学生に対する評価 定期試験〔実技〕（50%）、平常試験〔実技、レポート〕（50%）

授業科目名： 健康スポーツ科学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 石倉 忠夫
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 (1) 知識・技能の観点 講義受講時と運動時の気分の変化を測定し、運動活動が心身に及ぼす影響について検討する。 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践をととして、適切な運動強度による運動・スポーツを生涯にわたり実践 する意義について理解する。 (2) 思考力・判断力・表現力等の能力の観点 体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 (3) 主体的な態度の観点 運動習慣を身に付ける。			
授業の概要 講義受講時と運動時における気分の変化を測定・評価し、考察を加えレポートにまとめる。また、実技では各種スポーツ がどのような運動特性に該当するかについて理解しながらルールを学び、グループワークを通じた基本的な技術を習得す ることで生涯に亘り日常的に運動・スポーツを行う態度を養う。			
授業計画 第1回：講義：運動と気分の関係 第2回：体力測定 1：ロコモティブシンドローム度測定 第3回：運動時の気分の測定 1：強制ペースのウォーキング 第4回：運動時の気分の測定 2：快適自己ペースのウォーキング 第5回：各種スポーツの実践 1：からだのコントロール 第6回：各種スポーツの実践 2：ボール等を使ったからだ のコントロール 第7回：バスケットボール 1：基礎スキルの習得 第8回：バスケットボール 2：基礎スキルの実践 第9回：バスケットボール 3：基礎スキルの応用 第10回：卓球 1：基礎スキルの習得 第11回：卓球 2：基礎スキルの実践 第12回：卓球 3：基礎スキルの応用			

第13回：卓球4：基礎スキルの応用

第14回：体力測定2：ロコモティブシンドローム度測定

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

必要に応じてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

「健康スポーツの心理学」 竹中 晃二 編（大修館書店）

学生に対する評価

定期試験〔実技〕（50%）、平常試験〔実技、レポート〕（50%）

授業科目名： 英語コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山本 典子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 (1) 知識・技能の観点 Graded Readerの読みやすさレベル (YL) 0.7程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 (2) 思考力・判断力・表現力等の能力の観点 既習の英語表現を使用し、自身や日常について5往復程度の会話文で表現できる。 (3) 主体的な態度の観点 新出単語・表現の50%以上を覚えている。			
授業の概要 自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、会話文と文法を中心に学修する。多読といわれる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。			
授業計画 第1回：Classroom English Unit 1 Introductions 第2回：多読紹介@図書館 Unit 1 Speaking and Writing Practice 第3回：Unit 2 What Do You Do? 第4回：Unit 2 Speaking and Writing Practice 第5回：Unit 3 I'm Busy! 第6回：Unit 3 Speaking and Writing Practice 第7回：Review Units 1-3 第8回：Unit 4 What Does She Look Like? 第9回：Unit 4 Speaking and Writing Practice 第10回：Unit 5 People and Places 第11回：Unit 5 Speaking and Writing Practice 第12回：Unit 6 Likes and Dislikes 第13回：Unit 6 Speaking and Writing Practice 第14回：Review Units 4-6 第15回：総復習			

定期試験
テキスト 『Speaking of People Intro』 Peter Vincent他著 南雲堂 2023年 2,640円（税込）
参考書・参考資料等 検定試験受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 『TOEICテスト究極の模試600問』 株式会社アルク 2,600円＋税 『幼保英検3級テキスト』 株式会社ブックフォレ 1,900円＋税 『教職英語検定小学校教諭担当用テキスト第1巻』 株式会社ブックフォレ 2,500円＋税
学生に対する評価 定期試験〔筆記〕（50％）、平常試験〔筆記、口述、レポート〕（50％）

授業科目名： 英語コミュニケーションⅡ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山本 典子
				担当形態： 単独
科 目		教育職員免許法施行規則第6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
(1) 知識・技能の観点 Graded Readerの読みやすさレベル0.8～1.1程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。				
(2) 思考力・判断力・表現力等の能力の観点 既習の英語表現を使用し、自身や日常について7往復程度の会話文で表現できる。				
(3) 主体的な態度の観点 新出単語・表現の50%以上を覚えている。				
授業の概要				
英語コミュニケーションⅠに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、会話文と文法を中心に学修する。多読といわれる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。				
授業計画				
第1回：Unit 7 Personality				
第2回：Unit 7 Speaking and Writing Practice				
第3回：Unit 8 Tell Me About Your Family				
第4回：Unit 8 Speaking and Writing Practice				
第5回：Unit 9 Feelings				
第6回：Unit 9 Speaking and Writing Practice				
第7回：Review Units 7-9				
第8回：Unit 10 Communication				
第9回：Unit 10 Speaking and Writing Practice				
第10回：Unit 11 Memories				
第11回：Unit 11 Speaking and Writing Practice				
第12回：Secret Santa 異文化理解				
第13回：Unit 12 Into the Future				
第14回：Unit 12 Speaking and Writing Practice				
第15回：Review Units 10-12				

定期試験
テキスト 『Speaking of People Intro』 Peter Vincent他著 南雲堂 2023年 2,640円（税込）
参考書・参考資料等 検定試験受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 『TOEICテスト究極の模試600問』 株式会社アルク 2,600円＋税 『幼保英検3級テキスト』 株式会社ブックフォレ 1,900円＋税 『教職英語検定小学校教諭担当用テキスト第1巻』 株式会社ブックフォレ 2,500円＋税
学生に対する評価 定期試験〔筆記〕（50％）、平常試験〔筆記、口述、レポート〕（50％）

授業科目名： 情報処理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高村 伸吾
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 知識・技能の観点			
Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる。			
Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形など ができる。			
Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる。			
(2) 思考力・判断力・表現力等の能力の観点			
課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる。			
(3) 主体的な態度の観点			
インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる。			
授業の概要			
パーソナルコンピュータを介した記録や情報検索は日常的におこなわれ、必要不可欠とな っている。コンピュータを用いた基本的な情報利活用能力を習得するため、本科目では文章 編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネ ットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用 するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用 して実施する。			
授業計画			
第1回：Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル			
第2回：Word 1（基本操作）			
第3回：Word 2（文書作成と整形）			
第4回：Word 3（図入りの文書の作成）			
第5回：Word 4（表作成） 文献検索			
第6回：Word 5（総復習）			
第7回：PowerPoint 1（基本操作）			
第8回：PowerPoint 2（Word、Excelとの連携）			
第9回：PowerPoint 3（総復習）			
第10回：PowerPoint 4（プレゼンテーション）			

第11回：Excel 1（基本操作、関数） 第12回：Excel 2（関数） 第13回：Excel 3（表、グラフの作成） 第14回：Excel 4（既存データベースの利用） 第15回：Excel 5（総復習） 定期試験
テキスト 『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office 2021対応版』オーム社、2022
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 定期試験［レポート、制作物、実技］（50％）、平常試験［レポート、制作物、実技、口述］（50％）

授業科目名： 教育の基礎と制度（中 高・栄養）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：盧 珠 妍 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教員の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との 連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・教育の意義、目的及び子ども、家庭、学校、社会等との関わりについて理解し説明できる。 ・教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解し説明でき る。 ・教育の制度について理解し説明できる。 ・現代社会における教育の課題について、教育の歴史と関連付けながら理解し説明できる。 ・生涯学習社会における教育の現状と課題について理解し説明できる。			
授業の概要 人間は一生（誕生から死に至るまで）変容し続け、成長を遂げていくものである。本講義 ではまず、「教育とは何か」「子どもとは何か」「人間にとってそもそもなぜ教育は必要なの か」という根本的な問いについて議論する。つぎに、教育という営みの必要性和可能性につい て様々な思想を読み解きながら、理念的・歴史的・制度的に考察する。つづいて、教育法規・ 制度の成立と展開を辿りながら、現在の学校教育の役割や課題、学校と地域との連携について 検討する。その上で最終的に、生涯学習と教育の現状と今後を展望し、将来教育の実践者とし ての自らの仕事を理解するための基礎を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション （学修内容）授業の内容・評価等についての説明。私たちにとって教育とはどのような意味をもつ のかについて考える。 第2回：教育とは何か（1）—教育の意味と意義— （学修内容）自分の教育経験を振り返る。準備したワークシートをもとにグループで意見交換する。 教育について理念的・思想的・原理的に考える。 第3回：教育とは何か（2）—教育の必要性— （学修内容）人間にとってなぜ教育は必要なのかについて考える。 第4回：教育とは何か（3）—教育の可能性— （学修内容）人間の能力と教育について人間学的な視点から考える。 第5回：教えることと学ぶこと （学修内容）教育について「教える」「学ぶ」という視点から考える。			

第6回：教育と人間形成

（学修内容）「人間形成」という語を通して教育という営みを吟味する。

第7回：教育思想と歴史（1）—近代学校教育の成立とその背景—

（学修内容）学校がなぜ生まれ、どのように発展したのかについて考える。

第8回：教育思想と歴史（2）—日本の教育制度—

（学修内容）日本の教育制度がどのように変容してきたのかを歴史的に考察する。

第9回：子どもと教育思想（1）—近代教育と子ども—

（学修内容）近代ヨーロッパにおける子どもについての考えの転換と教育の変化について考える。

第10回：子どもと教育思想（2）—現代教育と子ども—

（学修内容）現代教育における子どもの存在についてアリエスの『子供の誕生』をもとに考える。

第11回：子どもと成長（1）—カリキュラム—

（学修内容）学校教育の系統主義と経験主義を比較しながら、子どもの成長とカリキュラムの関係について考える。

第12回：子どもの成長（2）—学力と評価—

（学修内容）学校における教育目標と学力、またその評価が子どもの成長とどのように関わっているのか考える。

第13回：子どもと成長（3）—発達と生成—

（学修内容）子どもの成長を「子ども - 大人」の関係性から考える。

第14回：現代における教育の課題

（学修内容）現代における教育の課題について議論し考える。

第15回：まとめと考察—教育のあり方について—

（学修内容）これまでの授業内容を踏まえて、教育とは何かについて自分の考えをまとめ、グループで共有する。

定期試験

テキスト

特定のテキストを使用せず、資料を配布する。

参考書・参考資料等

キーワード 現代の教育学（田中智志・今井康雄編 東京大学出版会）

教育思想史（今井康雄編 有斐閣）

学生に対する評価

定期試験〔筆記〕（60%）、平常試験〔レポート、口述〕（40%）

授業科目名： 教職論（幼・小・中高 ・栄養）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西川 由紀子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・学校教育の歴史を踏まえ、学校と教職の社会的意義を理解し説明できる。 ・現今の教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割や資質能力を理解し説明できる。 ・教員の職務内容の全体像や教員に課せられる職務上・身分上の義務を理解し説明できる。 ・学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解し説明できる。 ・教師になるための自分の課題について説明できる。			
授業の概要 本講義は、「教職とはどのような仕事なのか」「なぜ教師を志望しているのか」という問いから、教職について、また教師としての自己像について深く考えることを目的とする。まず、教職の本質と意義について原理的に考察する。つぎに、教師という仕事と役割、資質能力、職務内容等について概観する。つづいて、教職の歴史的変遷を辿りながらその理念、制度、実態などについて多角的に検討する。それらを踏まえて、教師としての仕事に求められる専門的特性と社会的使命について、教職の在り方と関連づけて吟味する。その上で、教師としての資質向上とキャリア形成、またプロフェッショナル性を構成するものについて理解を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 教職とは何か （学修内容）本講義のねらいと概要、授業の進め方について知る。教職に関わって、教員・教師・教諭の違いについて議論する。 第2回：教職をめぐる現状 （学修内容）教員の役割や教職の意義、また教職をめぐる現状について考える。 第3回：各教育段階における教師の役割・意義 （学修内容）学校教育の目的を理解するなかで、幼・小・中・高校それぞれの教育段階における教員の役割や教職の意義・魅力について考える。 第4回：日本の教職の特徴 （学修内容）グループごとに教職の特色を確認し、発表する。また、他の職種との比較を通して教員の職務内容や勤務形態など教職の特性について考える。 第5回：教員の採用と研修 （学修内容）教員採用のしくみと採用後の研修制度を理解し、それを通して教職の人材確保及び養成			

について考える。

第6回： 学校と教職の歴史（1）—近代日本の教師：明治期～昭和前期—

（学修内容）時代によって変化が求められる教職観（昭和前期まで）について考える。それを踏まえて、これからの教師に求められる役割について考える。

第7回： 学校と教職の歴史（2）—近代日本の教師：戦後教育改革～高度成長期—

（学修内容）時代によって変化が求められる教職観（高度成長期まで）について考える。それを踏まえて、これからの教師に求められる役割を吟味する。

第8回： 教員の服務

（学修内容）教員の各種服務について学ぶとともに、その問題点について考える。

第9回： 教員の権利と身分保障

（学修内容）教員の「職務上の義務」と「身分上の義務」を踏まえたうえで、その権利と身分保障について理解を深める。

第10回： 教員の職務と課題

（学修内容）教師の職務の全体像を踏まえて、教師の多忙化等の現代的課題について考える。

第11回： 学び続ける教師

（学修内容）教員研修の意義や制度や課題について考える。

第12回： チームとしての学校

（学修内容）「チームとしての学校」とは何か、その特徴と体制の現状、課題について考える。

第13回： 専門家としての教師

（学修内容）学校を構成するさまざまな専門職について事前に調べておく。

第14回： 私のめざす教師像（1）—自分自身の課題と強み—

（学修内容）「私のめざす教師像」を構想するうえで、自己の課題と強みについて考える。

第15回： 私のめざす教師像（2）—教師になるために—まとめと考察

（学修内容）これまでの授業を振り返り、自分が目指す教師像を確立する。

定期試験

テキスト

現代の教師論（佐久間亜紀・佐伯 胖 編 ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

教職論（吉田武男 監修・編集 ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

定期試験〔レポート〕（50%）、平常試験〔レポート、口述、実技〕（50%）

授業科目名： 教育心理学（中高・栄養）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渋谷（川奈部） 郁子
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標				
・ 教育の意義、目的及び子ども、家庭、学校、社会等との関わりについて理解し説明できる。				
・ 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解し説明できる。				
・ 教育の制度について理解し説明できる。				
・ 現代社会における教育の課題について、教育の歴史と関連付けながら理解し説明できる。				
・ 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解し説明できる。				
授業の概要				
人間は一生（誕生から死に至るまで）変容し続け、成長を遂げていくものである。本講義ではまず、「教育とは何か」「子どもとは何か」「人間にとってそもそもなぜ教育は必要なのか」という根本的な問いについて議論する。つぎに、教育という営みの必要性和可能性について様々な思想を読み解きながら、理念的・歴史的・制度的に考察する。つづいて、教育法規・制度の成立と展開を辿りながら、現在の学校教育の役割や課題、学校と地域との連携について検討する。その上で最終的に、生涯学習と教育の現状と今後を展望し、将来教育の実践者としての自らの仕事を理解するための基礎を身につける。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。教えるという行為の本質、求められるものなどについて考察する。				
第2回：発達（1）発達の規定因、発達と教育				
（学修内容）発達とはどのような現象を指すのか、代表的な理論を学ぶ。教育との関係性を学ぶ。				
第3回：発達（2）エリクソンの生涯発達理論				
（学修内容）各時期の発達課題について学ぶ。人間の一生についておおよその見通しをもつ。				
第4回：発達（3）ピアジェの発達理論				
（学修内容）代表的な認知発達理論を学ぶ。発達段階の考え方を理解する。				
第5回：発達（4）ヴィゴツキーの発達理論				
（学修内容）代表的な認知発達理論を学ぶ。発達の最近接領域の考え方を学ぶ。				
第6回：学習（1）古典的条件づけ、オペラント条件づけ				

(学修内容) 学習理論に基づく人間観を学ぶ。また、条件づけの基本的な考え方を知る。 第7回：学習 (2) 観察学習、学習性無力感、学習理論の教育への応用 (学修内容) 学習理論の教育への応用を学ぶ。 第8回：学習 (3) 動機づけ、原因帰属 (学修内容) 動機づけや原因帰属について学び、人間の行動の生じる背景を理解する。 第9回：思考と知能 (学修内容) 知能の構造、記憶、メタ認知について学ぶ。 第10回：パーソナリティ (1) 類型論、特性論、フロイトのパーソナリティ論 (学修内容) パーソナリティについての代表的な理論を学ぶ。自我の防衛機制とその働き、適応と不適応について学びを深める。 第11回：パーソナリティ (2) 個性の測定法 (学修内容) 学校現場で用いられる心理検査、知能検査について基本的知識を学ぶ。 第12回：学級の人間関係 (学修内容) 学級集団で生じる人間関係を様々な角度から学ぶ。 第13回：特別な配慮が必要な子どもの理解と支援 (学修内容) 発達障害などについて学び、合理的配慮の必要性を知る。 第14回：教育相談 (学修内容) カウンセリングの基本的な考え方と態度や、多職種との連携の重要性を学ぶ。 第15回：授業内容の振り返り (学修内容) これまでの授業を振り返り、教育のあり方について考察を深める。 定期試験
テキスト 中学・高校教師になるための教育心理学 第4版 (心理科学研究会編 有斐閣)
参考書 授業内で紹介する
学生に対する評価 定期試験 [筆記] (60%)、平常試験 [筆記] (40%)

授業科目名： 特別支援教育（中高・ 栄養）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 静香
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標				
・ インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解することができる				
・ 発達障害（疑いを含む）や知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなどが原因で、支援を必要とする児童・生徒の心身の発達について理解を深めることができる				
・ 支援を必要とする幼児・児童の家庭との協力や関係機関との連携について学び、理解することができる				
授業の概要				
近年、教育現場では全体の6.5%の幼児・児童たちに特別な支援が必要といわれるなかで、さまざまな支援の必要な子どもたちに多角的な支援を展開するためには、障害のもつ特性についてしっかりと学んでおく必要がある。				
本講義では、障害種別の特性を学ぶとともに、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の仕組みを理解できるようすすめていく。また、教育現場の事例も取り入れながら実践的に学んでいく。				
授業計画				
第1回：特別支援教育についての理念、教育的ニーズ				
（学修内容）教育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ。障害者差別解消法、合理的配慮についての理解を深める				
第2回：発達の法則（発達段階）、障害の早期発見				
（学修内容）発達の法則（発達段階）について理解を深める。個別の支援計画について理解する。				
第3回：支援の必要な子どもへの教育形態				
（学修内容）支援の必要な子どもたちにどのような支援方法が（教育形態、加配制度）があるのかを学ぶ。				
第4回：知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点				
（学修内容）知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ。				
第5回：多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援助、配慮すべき留意点				
（学修内容）気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともに どのような特性を持っているのかを学ぶ				
第6回：発達に課題のある子どもについての理解				

(学修内容) 発達障害者支援法について理解し、どのような困難を抱える人が支援の対象となるのか、どのような援助方法がのぞまれるのかを理解する 第7回：自閉症スペクトラム障害（ASD）児への理解と援助、配慮すべき留意点 (学修内容) 自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ 第8回：限局性学習症（SLD）児、注意欠如・多動症（ADHD）児への理解と援助、配慮すべき留意点（小テスト） (学修内容) 限局性学習症・注意欠如・多動症の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ 第9回：情緒に課題のある子どもに関する理解と援助、配慮すべき留意点 (学修内容) 情緒障害の諸症状について理解し、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ 第10回：保護者支援について (学修内容) 障害のある子どもをもつ保護者の心理や特性を理解し、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ 第11回：視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮すべき留意点 (学修内容) 視覚障害・聴覚障害・言語障害及び特性を理解するとともに、援助の留意点はなにか、どのように配慮するのがのぞましいかを学ぶ 第12回：身体に障害のある子ども（肢体不自由児・医療ケア児）への理解と援助、配慮すべき留意点 (学修内容) 身体障害にはどのようなものがあるのかを理解するとともに、各々が求める援助について理解を深める 第13回：特別な支援が必要な子どもたちを取り巻く環境の理解（家庭との協力、関係機関との連携） (学修内容) 支援が必要とされる家庭環境で育つ子どもに関する理解とともに援助方法について学ぶ（外国籍家庭・貧困家庭など） 第14回：ユニバーサルデザインについて (学修内容) ユニバーサルデザインや障害者マークなどについて理解を深め、支援の必要な子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。 第15回：まとめ（小テスト） (学修内容) 今までの講義内容での要点のまとめと特別支援教育の現状と課題について理解を深める 定期試験	
テキスト	
資料を提供する	
参考書・参考資料等	
教室で使える発達の知識（山田章 著 クリエイツかもがわ）	

新版 キーワードブック 特別支援教育 インクルーシブ教育時代の基礎知識（玉村公二彦編著 クリエイツかもがわ）

学生に対する評価

定期試験〔レポート〕（50%）、平常試験〔筆記〕（50%）

授業科目名： 教育課程総論（中高・ 栄養）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：柘植 誠子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・教育課程をめぐるわが国の現状と学校・教師が抱える今日的課題を理解できる。 ・「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」について説明できる。 ・学習指導要領の内容を通して、生徒や地域の実態を踏まえた指導計画を作成することができる。			
授業の概要 本授業では、教育課程の意義や編成の基本原則について考察し理解を深め、学習指導要領に基づいた教育課程の展開方法を学びます。さらに教育課程をめぐる代表的な思想や議論にも触れ、わが国の現状と学校・教師が抱える今日的課題を考えます。また、「カリキュラム・マネジメント」の重要性や「主体的・対話的で深い学び」を理解し、子どもたちの能力や個性を伸ばす教育課程（カリキュラム）について学びを深めます。その上で、個々の取得予定免許のカリキュラム作成に挑戦し、グループワークを通して実践的にカリキュラム編成の基礎的技法を学びます。			
授業計画 第1回：ガイダンス 教育課程とは何か （学修内容）授業を進めるうえでの留意点と教育課程の定義について 第2回：教育課程改定の経緯、教育課程の基準 （学修内容）改訂の基本方針、教育課程の意義、教育課程に関する法制について 第3回：学校教育の基本と役割 （学修内容）教育課程編成の原則及び育成を目指す資質・能力、カリキュラム・マネジメントについて 第4回：教育課程の編成と学習評価 （学修内容）教科横断的な視点に立った資質・能力、教育課程編成における共通的事項、学校段階間の接続について 第5回：生徒の発達支援 （学修内容）生徒及び特別な配慮を必要とする生徒への指導について 第6回：学校運営上の留意事項 道徳教育推進上の配慮事項 （学修内容）学校評価、家庭や地域社会との連携と道徳教育の指導体制と全体計画について 第7回：国語科の目標及び内容			

(学修内容) 国語分野の目標、内容構成、内容について 第8回：国語分野の学習を通して「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」 (学修内容) 国語分野において育成を目指す資質・能力 第9回：国語分野を「どのように学ぶのか」 (学修内容) 国語分野における学習過程と題材構成および「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について 第10回：国語分野の学習を通して「何が身に付いたのか」 (学修内容) 家庭分野における学習評価の改善のポイントについて、学習評価の進め方について 第11回：指導計画の作成と内容の取扱い (学修内容) 指導計画作成の配慮事項について、内容の取扱いと指導上の配慮事項について 第12回：カリキュラム作成の実際 (学修内容) 授業づくり（モデルプラン）を参考にしてグループで指導計画を考える。 第13回：カリキュラム発表①（中学校向けカリキュラム） (学修内容) グループで作成したカリキュラムのプレゼンテーションと他者のカリキュラムの学び 第14回：カリキュラム発表②（高校向けカリキュラム） (学修内容) グループで作成したカリキュラムのプレゼンテーションと他者のカリキュラムの学び 第15回：カリキュラムと評価 (学修内容) 教育評価の考え方、カリキュラム評価の進め方について 定期試験
テキスト 中学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月 文部科学省）、 高等学校学習指導要領解説 国語編（平成30年7月 文部科学省）、 資質・能力を育成する授業づくりと学習評価 中学校国語（三藤 敏樹・山内 裕介・高木展郎 著 著東洋館出版社）
参考書・参考資料等 文部科学省『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
学生に対する評価 定期試験〔レポート〕（50%）、平常試験〔筆記・制作物〕（50%）

授業科目名： 道徳教育論 (中・栄養)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 毛利 豊和 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 ・道徳教育の意義と魅力を実感する。 ・生活に生きる道徳の授業づくりのスキルを身につける。 ・道徳教育を推進するためのスキルを身につける。 ・社会の一員として、よりよく生きていこうとする（道徳性）意欲を高める。			
授業の概要 いじめ・不登校・SNS問題をはじめとする生きる力を育てる上での現代の課題を考えた場合、道徳教育に求められるものは大きい。その道徳教育の基本的な理論と実践方法を理解し、日々の生活に生かす道徳の授業づくりのスキルを身につける。また、一人の大人として教育者として、自分自身の道徳性を高めていこうとする態度を身につける。 (授業内容) ・道徳授業の実践例から、道徳教育の魅力を知る。 ・実践例と指導要領から、道徳教育の基本知識を身につける。 ・指導案作成・模擬授業とスピーチ学習から、道徳教育観を確かなものにする。 (学習方法) ・講義 ・議論（全体・グループ） ・演習（全体・グループ） ・模擬授業（考察・実習） ・授業外活動：宿題（資料収集・実施演習） ・一人学習			
授業計画 第1回：オリエンテーション～道徳教育の魅力 第2回：道徳教育の目標と内容～特別の教科 道徳 第3回：道徳教育における発達段階～教材の持つ力 第4回：現代的な課題 豊かな心（1）～指導技術：中心教材・補助教材 第5回：現代的な課題 豊かな心（2）～指導技術：1時間の流れ 第6回：現代的な課題 豊かな心（3）～指導案の書き方① 主題 第7回：道徳教育と保護者・地域との連携～指導案の書き方② 中心発問・導入・終末 第8回：道徳教育における発達段階～スピーチ学習 第9回：道徳教育における評価～スピーチ学習（リーダーシップ） 第10回：道徳教育の内容 Aの領域～スピーチ学習（フォロアーシップ）			

第11回：道徳教育の内容 Bの領域～模擬授業①グループ

第12回：道徳教育の内容 Cの領域～模擬授業②グループ

第13回：道徳教育の内容 Dの領域～模擬授業③全体

第14回：指導計画と全体計画～模擬授業④全体

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

「先生が楽しい！道徳授業の作り方」（毛利豊和著 三晃書房）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月 文部科学省）

学生に対する評価

定期試験（筆記）（60％）、平常試験（レポート）（40％）

授業科目名： 総合的な学習の時間 (中高・栄養)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 飯田 令子 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
1 学習指導要領に基づいて、教員に求められる総合的な学習の時間に関する具体的な指導の 在り方や学習活動、評価などの基本的知識・技能を修得することができる。			
2 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的案学習を行うことを通して、よりよく課 題を解決し、自己の生き方を考えていくための指導法を理解することができる。			
3 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用・応用して広範な事象を多様な角度から 俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現できるような指導計画を作成す ることができる。			
授業の概要			
総合的な学習の時間の先進事例を基に、総合的案学習の時間の意義や各学校における目標及 び内容を定める際の考え方を解説する。本授業を通して、指導計画作成や指導と評価の考え 方、実践上の留意点などを理解するとともに、その目標達成のために必要な基礎的な資質・能 力を身に付けるようにする。			
授業計画			
第1回：総合的な学習の時間の創設とその背景			
第2回：総合的な学習の時間の意義と目標、目指す資質・能力			
第3回：総合的な学習の時間の学習指導計画作成と学習指導及び評価の基本的な考え方			
第4回：総合的な学習の時間における探究学習過程とその指導法			
第5回：総合的な学習の時間の実践例(1)「地域の伝統と文化」			
第6回：総合的な学習の時間の実践例(2)「地域と自然環境」			
第7回：総合的な学習の時間の実践例(3)「地域の町づくり」			
第8回：総合的な学習の時間の実践例(4)「地域と福祉」			
第9回：総合的な学習の時間の実践例(5)「エネルギー資源と環境」			
第10回：総合的な学習の時間の実践例(6)「地域と防災」			
第11回：総合的な学習の時間の実践例(7)「和食の文化」			
第12回：グループ協議に基づく学習指導計画案の作成と提案準備			
第13回：グループ協議に基づく学習指導計画案の作成、プレゼンテーションの作成			

第14回：グループ協議に基づく学習指導計画案の提案(1)

第15回：グループ協議に基づく学習指導計画案の提案(2)及び総合的な学習の時間の展望

定期試験

テキスト

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年告示） 平成29年7月 文部科学省

高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編（平成30年告示） 平成30年7月 文部科学省

参考書・参考資料等

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間

令和2年7月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 総合的な探究の時間

令和3年8月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

学生に対する評価

定期試験（レポート試験 50%） 平常試験（授業後の受講生によるコメントカード 30%、
グループ発表 20%）

授業科目名：特別活動 (中高・栄養)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：前田 学 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
・特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解し説明することができる。 ・特別活動の目標と内容について理解し、生徒に育てたい力を明確に意識した指導観をもって指導案に書くことができる。 ・特別活動の特質や汎用性を生かし、各教科等との相互の関連を図りながら、中学校教育の目的や目標を達成を目指すことができる。			
授業の概要			
学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、生徒の個性慎重を図ると同時に社会性の育成の場としての意義をもつ教育活動である。人としての生き方を学ぶ領域である。講義形式を中心に、グループワークや討議を取り入れ、学習指導要領や実践例をもとに、「特別活動」の教育課程上の位置づけ、基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）や、その教育的意義の理解を図る。 なかでも、特別活動において育成を目指す資質・能力における三つの重要な視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を意識した指導のあり方に重点を置き、生徒理解や生徒指導・道徳教育・キャリア教育との関連を踏まえながら理解を深める。 また、学級活動(2)と学級活動(3)については学習指導案を作成し、授業づくりの基礎基本を習得できるようにする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 学校教育と特別活動①～「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理を考察する。			
第2回：学校教育と特別活動②～特別活動で育てる力とその実践について理解する。			
第3回：学級活動①～学級活動(1)の事前指導と準備について理解する。			
第4回：学級活動②～学級活動(1)の話し合い活動（学級会）について具体的な実践を知り、指導の見通しを持つ。			
第5回：学級活動③～学級活動(1)の話し合い活動（学級会）について具体的な実践を知り、指導の見通しを持つ。			
第6回：学級活動④～学級活動(1)の事後の活動や係活動について具体的な実践を知り、指導の見通しを持つ。			
第7回：学級活動⑤～学級活動(2)の学習内容と指導の要点を捉える。			

第8回：学級活動⑥～学級活動(3)の学習内容と指導の要点を捉える。
第9回：学級活動⑦～学級活動(2)あるいは学級活動(3)の指導案を作成し、具体的な学習内容や指導のイメージを持つ。
第10回：生徒会活動と学校行事～自治能力を育てるための「生徒会活動」や学校文化を創造する学校行事の具体的な内容の理解を図る。
第11回：特別活動と生徒指導～特別活動と生徒指導との関連について、特別活動の果たす役割を生徒指導の視点から明らかにする。
第12回：特別活動と道徳教育①～道徳教育における特別活動の果たす役割を明らかにする。
第13回：特別活動と道徳教育②～道徳教育における両輪とされる特別活動と道徳科との関連を考察し、その両輪を効果的に駆動させる教育実践について知る。
第14回：特別活動と人権教育～特別活動と人権教育との関連について明らかにし、特別活動の果たす役割をそれぞれの視点から考察する。
第15回：特別活動とキャリア教育及び合理的配慮～特別活動とキャリア教育をそれぞれで育てる基 礎的・汎用的能力を関連付ける。また、障害のある生徒への指導方法の工夫を、合理的配 慮の視点から考える。
定期試験
テキスト
使用しない。
参考書・参考資料等
中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）
学生に対する評価
定期試験（レポート）（50％）、平常試験（レポート）（50％）

授業科目名： 教育の方法と技術（I C T活用含む）（幼・ 小・中高・栄養）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡邊 雄一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 ・教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史的変遷・理論など）を理解する。 ・情報通信技術の活用の意義や在り方を踏まえ、教育データを活用した学習指導や遠隔・オンライン教育等の基本を理解する。 ・I C Tを用いた授業設計の方法を理解し、デジタル教科書や電子黒板等のI C Tを活用した授業を行うことができる。 ・情報社会における正しい判断や望ましい態度を理解し、情報社会で安全に生活するための危険回避の理解やセキュリティの知識・技能を説明することができる。 ・グループ学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法を提示できる。			
授業の概要 中高国語・家庭科及び栄養教諭の教育内容を理解し、効果的な授業を展開するために必要な教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、指導技術、プレゼンテーションの方法を学習する。 また、インターネット機能やプレゼンテーションソフトが搭載されたパソコン、電子黒板や各種デジタルコンテンツ等のI C Tを活用した授業設計に関わる知識・技術を学ぶとともに、教育データの活用や遠隔・オンライン教育の基本を理解することにより、情報通信技術を活用した効果的な学習を推進する方法を習得する。 また、情報モラルを備えた教育職員となるよう、基本的知識と適切な態度を修得する。 以上の内容を踏まえて、グループワークやディスカッションを通して教育の方法・技術に関する考察を深めるとともに、デジタル教科書や電子黒板を実際に活用した模擬授業を行う。 さらに、校務支援システム等の活用によって実現する校務の情報化については、課題も含め認識できる内容とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス（I C T活用含む） （学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 第2回：教育方法に関する諸概念			

（学修内容）中高国語・家庭科教諭及び栄養教諭として効果的な授業を実践するために必要な教育方法について考察する。

第3回：教育方法の史的変遷① 近代の教授法

（学修内容）教授学の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。

第4回：教育方法の史的変遷② 教育の現代化と教授理論

（学修内容）教育の現代化と教授理論について解説する。

第5回：カリキュラム開発

（学修内容）カリキュラム開発の概念について概説する。

第6回：教育課程と学習指導要領

（学修内容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。

第7回：教育評価とは

（学修内容）教育における評価の意味や意義について考察する。

第8回：協働的な学習の理論

（学修内容）仲間との協同による学習の意義と方法について考察する。

第9回：ICT活用の意義と理論

（学修内容）ICTを用いた指導について概説する。効果的な授業設計の方法についてグループディスカッションを行う。

第10回：ICTを活用した学習指導

（学修内容）学習支援アプリ（ロイロノート）を用いたオンライン教育に関する学習指導方法を解説する。

第11回：情報活用能力を育成するための指導法

（学修内容）情報活用能力の定義とその育成の動向を概観し、情報活用能力の指導法について考察する。

第12回：授業の設計

（学修内容）ICT活用を含めた学習指導案の書き方について解説する。

第13回：模擬授業準備（ICTを活用した具体的な授業の設計）

（学修内容）提示された課題に対して適切な学習指導方法を提示できるよう準備を行う。

第14回：模擬授業（ICTを活用した授業の実践）

（学修内容）各グループがICTを活用した授業を実践する。

第15回：情報モラルについて

（学修内容）個人の権利（肖像権等）、情報保護に関する法制度、情報の信頼性、発信・受信のセキュリティ、トラブル対応、情報教育について解説する。

定期試験

テキスト

適宜、プリントを配布する。

参考書・参考資料等
自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術（岡田涼〔ほか〕 北大路書房）
教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン（稲垣忠 北大路書房）
学生に対する評価
定期試験〔レポート〕（55%）、平常試験〔レポート 実技〕（45%）

授業科目名： 生徒・進路指導論（中 高・栄養）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡田 敏之
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 生徒指導の全体像が理解でき、それを具現するために不可欠な内容・方法を認識できる。 ・ 進路指導・キャリア教育について理解でき、それを教育実践に生かせることができる。 ・ 実際に学校で生起している具体的な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に考察できる。 ・ 仲間と協働し、問題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。			
授業の概要			
・ 実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論や方法を習得する。 ・ 進路指導・キャリア教育について論究し、学校現場での実践を考察する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、教育を取り巻く社会の状況			
第2回：生徒指導・進路指導の基本概念			
第3回：望ましい集団づくり			
第4回：学級担任が行う教育相談			
第5回：問題行動への対応			
第6回：子どもの規範意識を育てるー非行防止教室ー			
第7回：いじめ問題の理解と対応Ⅰーいじめの原因ー			
第8回：いじめ問題の理解と対応Ⅱー未然防止に向けてー			
第9回：不登校の理解と対応			
第10回：保護者対応			
第11回：子どもの意欲を育てるーコーチングスキルよりー			
第12回：「職業指導」から「進路指導」そして、「キャリア教育」へ			
第13回：個々の発達を踏まえたキャリア教育			
第14回：キャリア意識を育むカリキュラムの構成			
第15回：特別講義「学びの原点を追究する」～生徒指導・進路指導のまとめ			
定期試験			
テキスト			
生徒指導提要 令和4年 デジタル版（文部科学省 文部科学省ホームページよりダウンロード）			

ド可)
参考書・参考資料等 三訂版 入門 生徒指導－「いじめ防止対策推進法」「チーム学校」「多様な子どもたちへの対応」まで－（片山紀子著 学事出版）
学生に対する評価 定期試験（レポート）（50％）、平常試験（レポート）（50％）

授業科目名： 教育相談 (中高・栄養)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：荘厳 茶茶 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 1)教育相談の目的について説明することができる。 2)教育相談に必要な基礎的・理論的な知識とスキルについて説明できる。 3)教育相談の対象となる問題の多様性に柔軟な態度をもつことができる。			
授業の概要 学校現場において子どもたちやその家庭が抱える多様な問題について、まず現状や背景を知り、教育相談とは何を目的とする活動であるかを理解する。その上で、教育相談に必要な基礎的・理論的な知識とスキルを学び、事例やワークを通して実際的な教育相談のあり方への理解を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション （学修内容）授業内容の概略、および授業計画の説明 第2回：教育相談の基礎知識 （学修内容）教育相談に関する基礎的・理論的知識 第3回：価値観の多様性への理解 （学修内容）価値観の多様性を受容・理解する資質 第4回：聴くスキル （学修内容）傾聴に必要なスキル 第5回：子どもたちのサイン （学修内容）子どもたちの発するSOSへの気づき 第6回：自己理解の深化 （学修内容）教育相談を受ける者の自己理解 第7回：不登校への対応8 1）—基礎知識— （学修内容）不登校問題に関する定義と実態 第8回：不登校への対応（2）—事例研究— （学修内容）不登校問題への実際の対応とポイント 第9回：いじめへの対応(1)—基礎知識— （学修内容）いじめ問題に関する定義と実態			

第10回：いじめへの対応(2)—事例研究— (学修内容) いじめ問題の様態と対応事例 第11回：障害への対応(1)—基礎知識— (学修内容) 各種障害の基礎知識 第12回：障害への対応(2)—児童・生徒理解— (学修内容) 障害を抱える児童・生徒への理解 第13回：保護者を対象とする教育相談(1)—基礎知識— (学修内容) 保護者対応の重要性とポイント 第14回：保護者を対象とする教育相談(2)—事例研究— (学修内容) 保護者対応の事例 第15回：教員のメンタルヘルス (学修内容) 学校教員のメンタルヘルスの実態、課題、背景 定期試験
テキスト ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック [第2版] (向後礼子・山本智子著 ミネルヴァ書房)
参考書・参考資料等
学生に対する評価 定期試験 [筆記] (70%)、平常試験 [レポート] (30%)

授業科目名： 教育実習事前・事後指導（中高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 平間尚子 柿本真代
			担当形態： 複数
科 目	教育実践に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育実習		
授業のテーマ及び到達目標			
1）教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えを發表することができる。			
2）教育実習に臨むにあたり、学習指導、生徒理解、 学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解し、説明することができる。			
3）必要な教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。			
授業の概要			
教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的など、その意義を理解するとともに、実習への心構えを確かなものにする。実習に備えて、指導案作成、模擬授業及び児童生徒理解につながるロールプレイ等を通して実習に臨むために必要な力を身につける。実習校の学校組織や教育目標、重点取り組み等の理解を図る中で、実習に向けての自己の課題を明らかにする。ビデオを見たり、グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：教育の目的・学校文化の理解			
第3回：教師に求められる資質・能力			
第4回：生徒理解			
第5回：人権と教育			
第6回：教育実習報告会			
第7回：観察実習記録の取り方			
第8回：実習記録作成と省察			
第9回：指導案作成の方法			
第10回：指導案作成の実際			
第11回：模擬授業と教材研究①導入の工夫			
第12回：模擬授業と教材研究②発問の工夫			
第13回：模擬授業と教材研究③主体的・対話的で深い学び			
第14回：教師とコミュニケーション能力			
第15回：まとめ			

定期試験
テキスト 教育実習事前事後指導テキスト（京都華頂大学教職課程編）
参考書・参考資料等 適宜紹介する
学生に対する評価 定期試験（レポート試験 50%）、平常試験（実技・レポート試験 50%）

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2単位	担当教員名：平間尚子、柿本真代		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数	20人				
教員の連携・協力体制					
教職課程指導センターの構成員と科目修得、実習巡回指導の内容などを相互に把握するなど連携し、必要に応じてプログラム・授業回に参加する					
授業のテーマ及び到達目標					
1) 教師として必要な教科指導力について理解し、主体的で対話的な学びを促す授業のための学習指導案を作成することができる。					
2) 教師として必要な生徒指導力や学級経営力について理解し、学級経営に対する自己の見解を説明することができる。					
3) 教育実習の成果と課題についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。					
授業の概要					
教職実践演習は、教員養成課程全体を通して、教員として適切な資質能力を有機的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。これまで身につけた資質能力を、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、確実なものとするを目的としている。中学生・高校生の発達特性を踏まえ、現代社会の諸課題とも照らし合わせながら、個々の学生に応じた指導を行う。ビデオを見たり、グループディスカッション、プレゼンテーションを行ったりしながら授業を進める。					
授業計画					
第1回：ガイダンス					
第2回：自己のこれからの研修課題					
第3回：社会性や対人関係能力についての振り返り					
第4回：生徒理解、授業づくりについての振り返り					
第5回：教育実習報告会					
第6回：生徒理解と場面指導					
第7回：生徒理解と学級経営					
第8回：現在の教育課題について					
第9回：生徒理解と教育方法（特別な支援を要する生徒への教育支援について）					
第10回：これからの教師に求められる資質・能力について					
第11回：模擬授業①（導入の工夫、授業の流れを中心に）					
第12回：模擬授業②（発問の工夫を中心に）					
第13回：模擬授業③（ICT機器の効果的な活用法を中心に）					
第14回：教師と保護者の関係づくりについて					
第15回：まとめ					
定期試験					
テキスト					

授業中に、適宜プリントを配布する

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 国語編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

定期試験（レポート 60%） 平常試験（レポートと実技 40%）